

南半球便り（その 52）：時代は水素へ

1 月 2 4 日

先週は着任以来 3 回目となるメルボルン出張をしてきました。今回は水素関連式典への出席が主眼でした。

1. あれは一年前

昨年 3 月のことでした。「止める人」も「駅に残す人」もないまま（笑：わかってくれる人は同世代でしょう。ぴんどこない方は、ちあきなおみの珠玉の名盤「微吟」をお聞きください。）、ビクトリア州のラトロブ・バレーにある広大な褐炭田に赴きました。そして、近接する石炭ガス化・水素製造施設で、褐炭から水素を製造するプロジェクトの発足を祝う式典に出席してきたのです（詳しくは、[「南半球便り（その 8）」](#)ご参照ください。）

その後、ほぼ一年が経ちました。実証プロジェクトを進める中で、遂に生産された水素を船で豪州から日本に運ぶ段階に到達したのです。

2. 「すいそ・ふろんていあ」

ガス状の水素をマイナス 253 度に冷却して液化して運ぶ船は、その名も「すいそ・ふろんていあ」。神戸港を出港してメルボルン近郊のヘイスティング港に到着。匠の国たる日本の技術の粋を体現したような優美な船体を豪州の地に見せてくれたのは、なんとも誇らしく心強い限りでした。

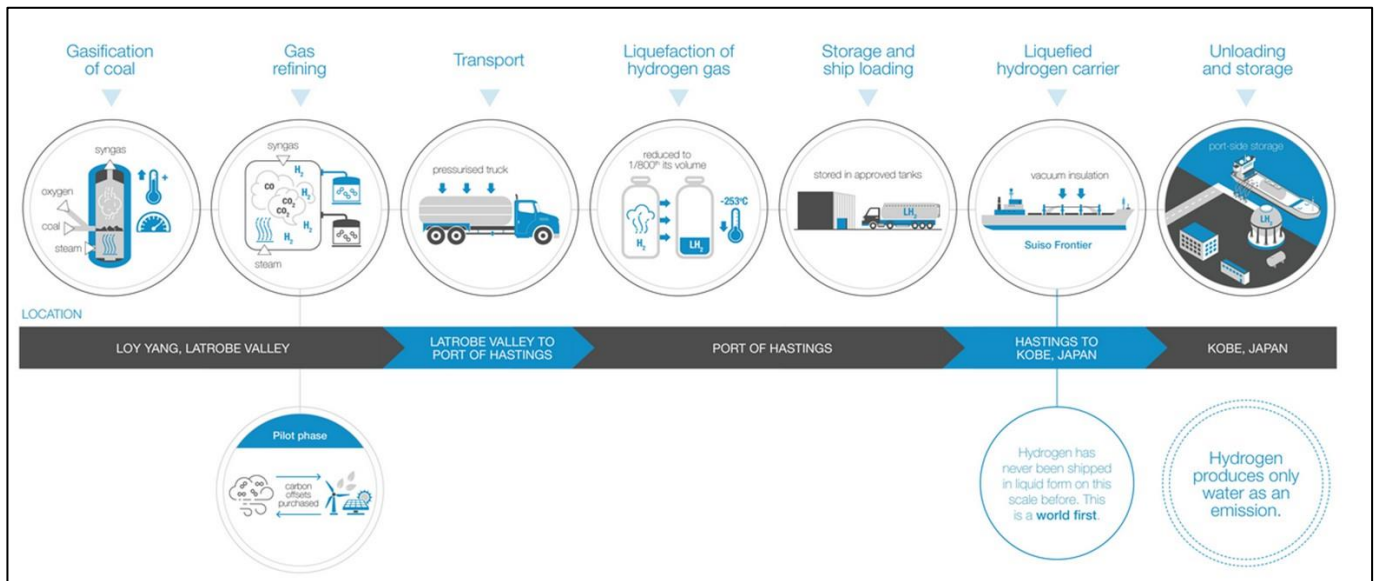


ヘイスティングス港へ接岸した「すいそ・ふろんていあ」の勇姿

これから水素を積み込んで神戸までの 9000 キロを 16 日間かけて航行することが見込まれています。液化水素の船舶輸送は史上初なのです。

3. 壮大な式典

「すいそ・ふろんていあ」の豪州到着を祝う式典が1月21日にヘイスティング港の埠頭で行われました。豪州連邦政府からは、私の友人であるテイラー・エネルギー大臣、ピット資源大臣という2名の閣僚に加えて、ウィルソン・エネルギー副大臣、フィンケル特別補佐官、ビクトリア州政府からはパラス財務大臣、ジャレット投資促進庁（「インベストメント・ビクトリア」）CEO 他が出席。関連日本企業、島田在メルボルン総領事や私などの日本政府関係者を含め、総勢160名を超える大きな式典になりました。



HESC プロジェクトの全体像 出典：[HESC ホームページ](#)より

気候変動問題への対応が注目を浴びている中で、まさに、技術革新の最前線を行く話。そのため、式典の模様、日本からビデオで参加された萩生田経産大臣を始め閣僚方の発言は、出席していた日豪双方のメディアからも高い注目を受け、報道ぶりも活発でした。【私のスピーチについては、[ここ](#)をご覧ください。TBS による報道も[こちら](#)でご覧ください。】

4. 関係者に、「お疲れ様です。」

それにつけても、ここまでこぎ着けることができたのは、川崎重工、J パワー、岩谷産業、丸紅、住友商事、AGL といった日豪双方の関係企業のご尽力があつてのものです。式典での関係者の晴れ晴れとした顔を拝見した際、プロジェクトの進展を誠にうれしく思うとともに、「おめでとうございます。」と心よりお祝いしたい気持ちになりました。



テイラー大臣、ピット大臣、ウィルソン補佐大臣、パラス VIC 州大臣を囲んでの記念撮影

むろん、日本にあっては、日本政府（NEDO）からの助成、豪州にあっては連邦政府及びビクトリア州政府からの資金援助がありました。時代の最先端を行く事業であるだけに、官民挙げての協力が必須なのです。

5. 時代は水素へ

日本政府の方針では、2050 年までに二酸化炭素排出量をネットゼロに押さえていく中で、エネルギー源としての水素の使用量を 10 倍に伸ばし、電力源の 10 パーセントを水素に頼る目標が設定されています。

この一環で不可欠なのが、豪州における水素生産と日本への輸出です。くだんのラトローブ・バレーの褐炭からは、実用化段階で年間 22 万トンを上回る水素の生産が期待されています。

かたや、水素の生産地、方法はこれに限られず、全豪で日本企業が関与した水素プロジェクトが 20 以上も同時並行的に進んでいる状況にあります。まさに、時代が水素社会に向かって舵を切っていく中で、今回のプロジェクトはその先頭を走り、新しい様相に変えていく「ゲーム・チェンジャー」の役割を担っている次第です。

6. 水素自動車も

式典会場で嬉しかったのは、トヨタ自動車が開発した水素自動車「ミライ」が話題を集めていたことでした。すでにビクトリア州政府を始め、環境問題に高い関心を有する関係者を中心にリース契約が相次いでいる由。



水素自動車「ミライ」とフィンケル低排出技術担当豪州政府特別顧問

私も乗せてもらいました。高級スポーツカーを思わせる精悍なボディーですが、いったん車内に入れば書斎にいるかのような静粛性。ただし、アクセルを踏み込んだだけで簡単に100キロまで加速できるとのパワー。次回は是非ハンドルを握りたいという強い気持ちに駆られました。

環境問題への対応と経済活動との両立を目指す、豪州で繰り広げられている様々な動き。目が離せません。

山上信吾